



ふとほかが
見ゆるようながこ
車椅子をよめよ
ここに
小さな花が咲いた

1981
[Red Seal]

旅のあかし

2018年5月15日(火)
～7月22日(日)

休館日 5月28日、6月11日、25日、7月9日
開館時間 午前9時から午後5時まで
入館料 大人500円 小中学生300円 幼児無料※20名以上の団体、JAF会員・障がい者割引有り
会場 芦北町立星野富弘美術館 熊本県葦北郡芦北町大字湯浦1439-2 0966-86-1600
URL:<http://www.hoshino-museum.com>

旅 の あ か し

1979年、星野富弘は群馬県心身障害者福祉センターで最初の作品展を開きます。自らの生の証として描き上げられた、星野の分身ともいえる作品たちは、展覧会后、星野の手からも、病室からもぬけ出し、自立し、様々な人の心に忍び込み、自由に旅立っていきました。身障者センターでの展覧会を境に、星野の活動は発表を前提とした本格的な創作活動へと変化します。1年半後に著書『愛、深き淵より。』（立風書房）、さらに1年後自身初めての詩画集『四季抄 風の旅』（立風書房）が出版されると、国内はもちろん、遠く外国にいる日本人にまで迎えられ、全国各地で原画の展覧会を開きたいという声が上がります。これが現在に続く「花の詩画展」を開く契機となり、星野の作家活動の新しい展開が始まることとなります。本展では、その最初の詩画集『四季抄 風の旅』の新編として出版された『新編風の旅』に収録されている星野の初期作品と、1982年から約20年かけて描き直された詩画作品を中心に展示するとともに、エッセイの一部を紹介します。風になり緑の山を登っていく星野富弘の風の旅。皆様にはそのあかしを感じていただければと思います。



「ちゅーりっぷ」1975年



星野 富弘 (ほしの とみひろ)

1946年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。群馬大学教育学部卒業後、中学校の体育教諭になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したとき誤って頭部から転落。頸髄を損傷。首から下の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵をかきはじめる。前橋で最初の作品展を開く。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年、高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。1991年群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。著書多数。

1946年、群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に生まれる。群馬大学教育学部卒業後、中学校の体育教諭になるが、クラブ活動（器械体操）の指導中、模範演技で空中回転したとき誤って頭部から転落。頸髄を損傷。首から下の自由を失う。入院中、口に筆をくわえて文や絵をかきはじめる。前橋で最初の作品展を開く。退院後、雑誌や新聞に詩画作品やエッセイの連載を始める。1982年、高崎で初の「花の詩画展」を開催以降、全国各地、また海外でも開催され、現在も続いている。1991年群馬県勢多郡東村（現みどり市東町）に富弘美術館開館。現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中。著書多数。

◎同時開催「初夏の展示」

初夏の草花を題材にした作品を展示します。



「美しい今」1990年



「紫陽花」1989年

○星野富弘美術館へのアクセス

【熊本方面から】

お車の場合：南九州西回り自動車道芦北ICから県道27号線經由国道3号線で芦北町湯浦へ。湯町交差点を右折し約1分。熊本市から約1時間30分。

電車の場合：肥薩おれんじ鉄道佐敷駅下車後、タクシーで約10分。もしくは、湯浦駅下車後、徒歩で約20分。熊本駅から約1時間50分。

【鹿児島方面から】

お車の場合：国道328号線及び国道3号線で芦北町湯浦へ。湯町交差点を左折し約1分。鹿児島市から約2時間30分。

電車の場合：肥薩おれんじ鉄道湯浦駅下車後、徒歩で約20分。鹿児島中央駅から約3時間。

